



天然記念物

たかくらひこじんじやしやそう

74. 高倉彦神社社叢

■指定年月日 昭和37年2月13日(1962)

■指定面積 9,778㎡

■所在地 蛸島町レ138

■所有者 高倉彦神社

高倉彦神が鎮座する社叢は、^{たこじま}蛸島海岸に臨む安山岩質の独立丘で、通称「^{さんのお}山王の森」と呼んでいる。土地の守り神の神域として、かつ、魚つき林として、自然林が温存されて原生林的な景観を呈している。

この社叢は、タブノキとスダジイを主とする照葉樹林（暖帯系常緑広葉樹林）で、タブノキは外縁部に、スダジイは内部に多く、ケヤキなどを混ぜて上層を覆っている。中・下層には、モチノキ・ヤブツバキ・シロダモ・ヒサカキ・マサキ（海岸性常緑低木）などが目立ち、ヤダケ・ベニシダなども多く混在している。海岸側の岩場には、稀少な植物マルバシャリンバイ（海岸性常緑低木、北限は佐渡）が見られる。

タブノキやスダジイは、その老木が枯死しても、若木が林内に生育している陰樹なので、これを主とする照葉樹林は永続し安定している。樹林を構成する植物群叢は、林外からの風の吹き込みや日光の直射を防ぎ、林内の温度や湿度を保ち、多くの植物と動物を共存させている。

このような照葉樹林は、今では珠洲市内でも社叢林などにわずかに残されている。この社叢はその一つとして貴重である。